

免許状更新講習の成果と課題

—開設者(岡山大学)の現状—

岡山大学大学院教育学研究科

三村由香里

岡山大学の免許状更新講習(令和元年度)



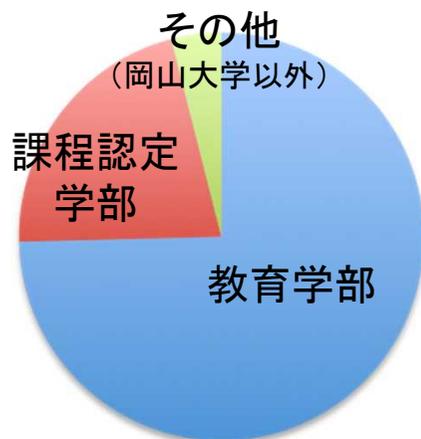
岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

開設講座

	全体	必修	選択必修	選択
講習数	126	9	28	89
受講人数	5082	1461	1229	2392
定員充足率	78%	81%	70%	78%

岡山県内での
開設の約6割

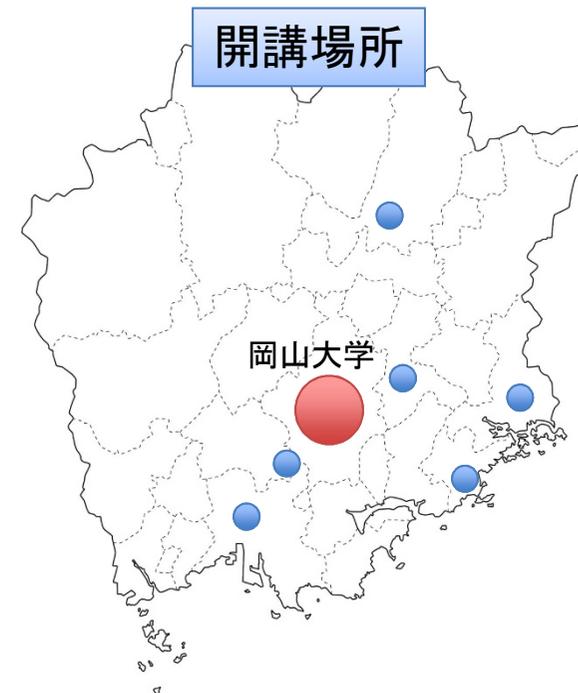
講習担当者所属



受講者勤務先所在地

岡山県(うち岡山市)	86.5%(41.3%)
中国地方	8.7%
関西地方	2.9%
四国地方	1.5%
その他	0.4%

開講場所



その他

免許法認定講習との同時開設(平成27年度より)
(小学校教諭, 特別支援学校教諭, 幼稚園教諭)

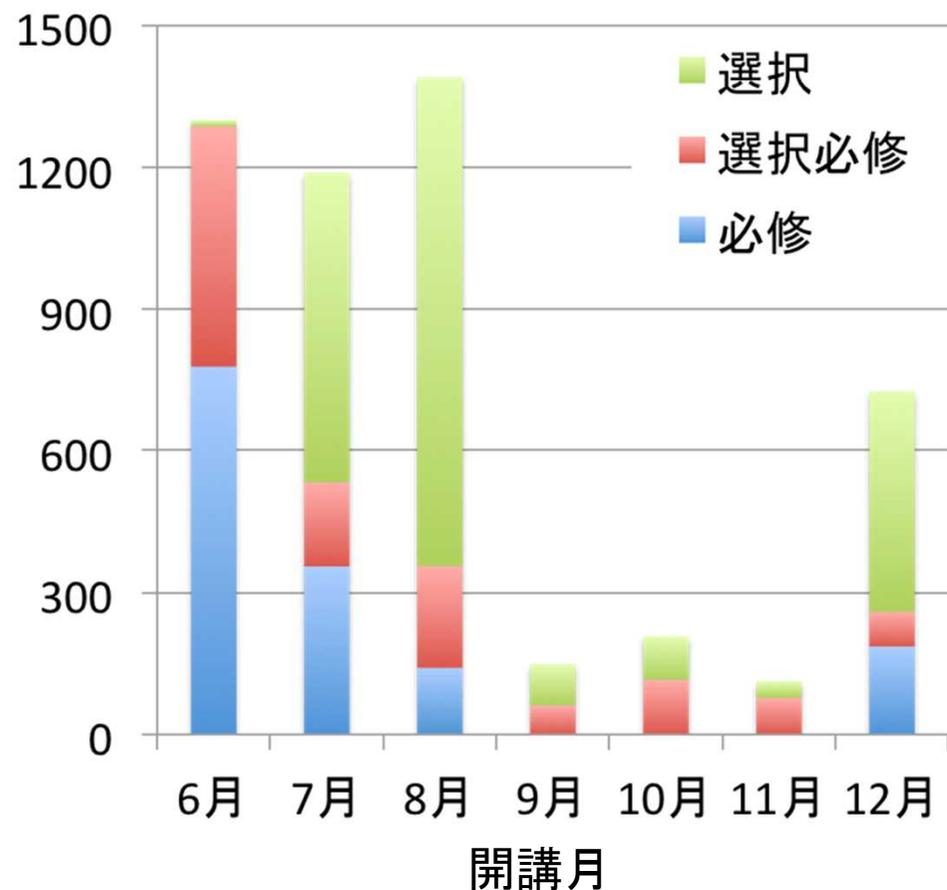
免許状更新講習の実施状況(令和元年度)



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

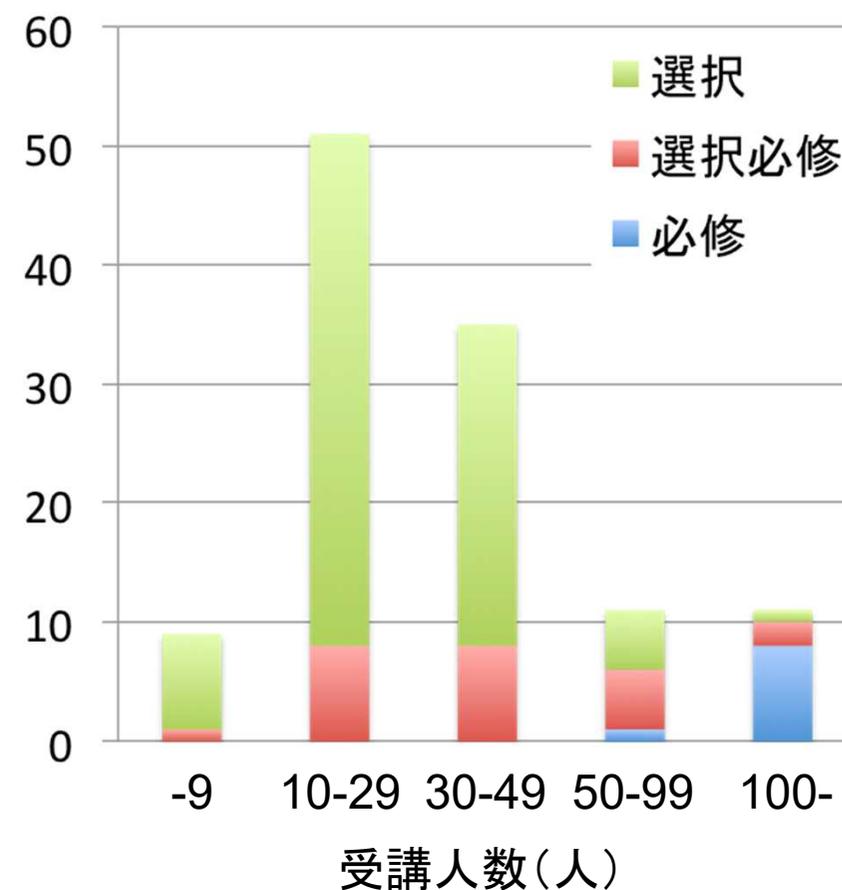
月別受講者数

受講者数(人)



講座当たりの受講者数

講座数

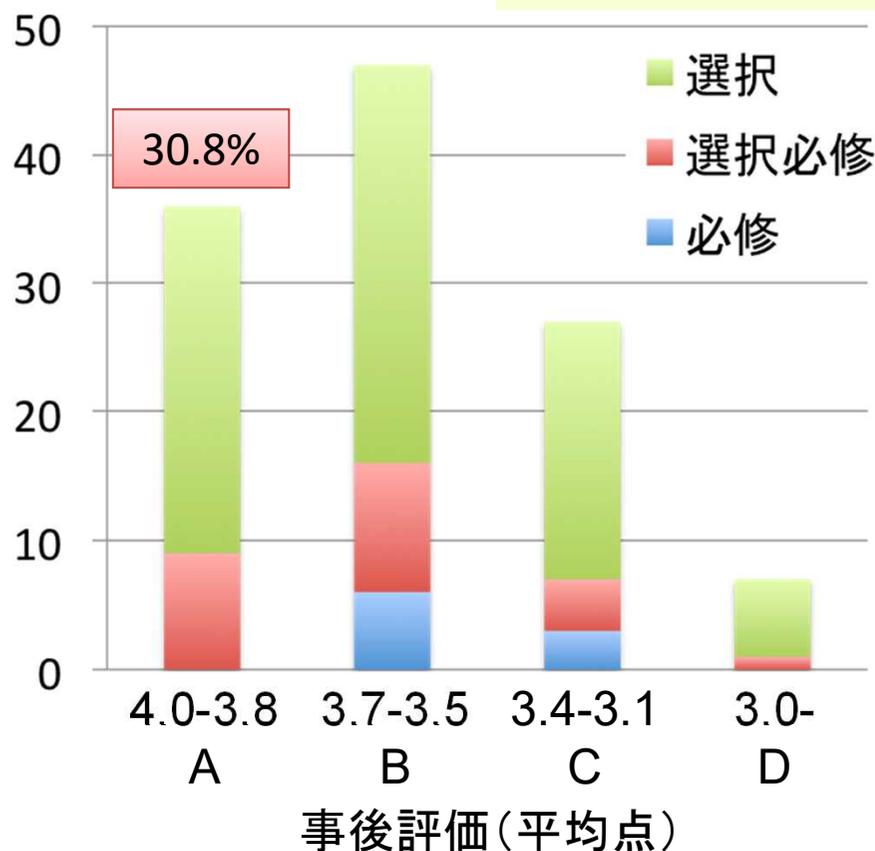


免許状更新講習の受講者評価の状況

事後評価別講座数

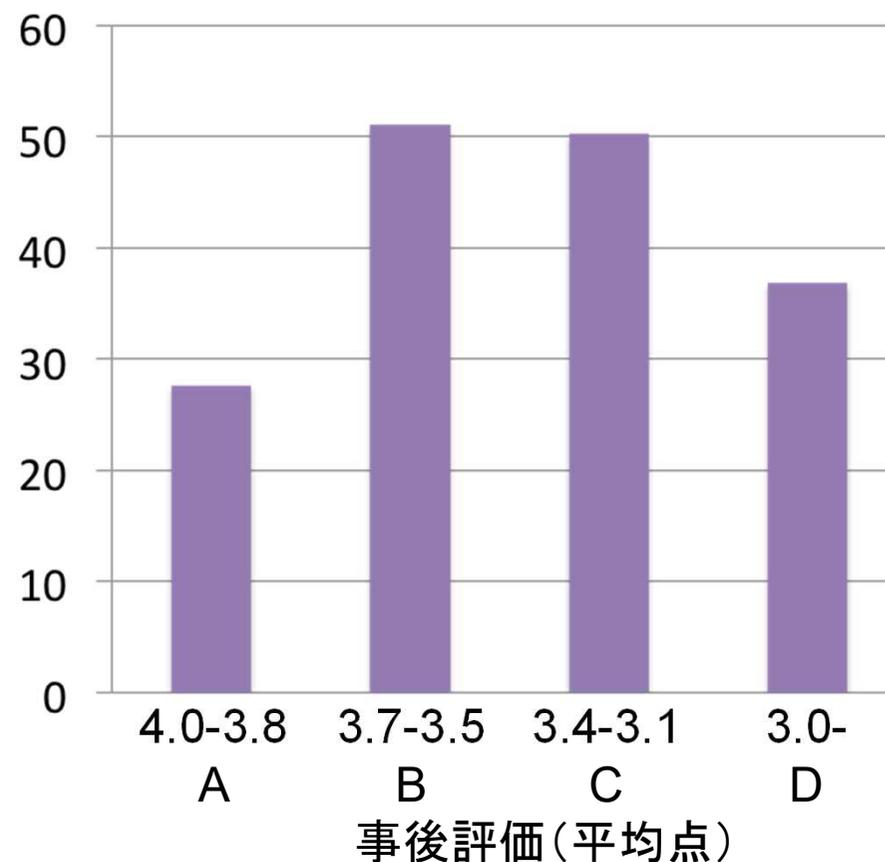
4:よい
3:だいたいよい
2:あまり十分でない
1:不十分

講座数



事後評価別講座当たりの受講者数

受講者数(人)



事後評価が高い講座(A)は全体の約3割で、受講者数の平均は30名以下

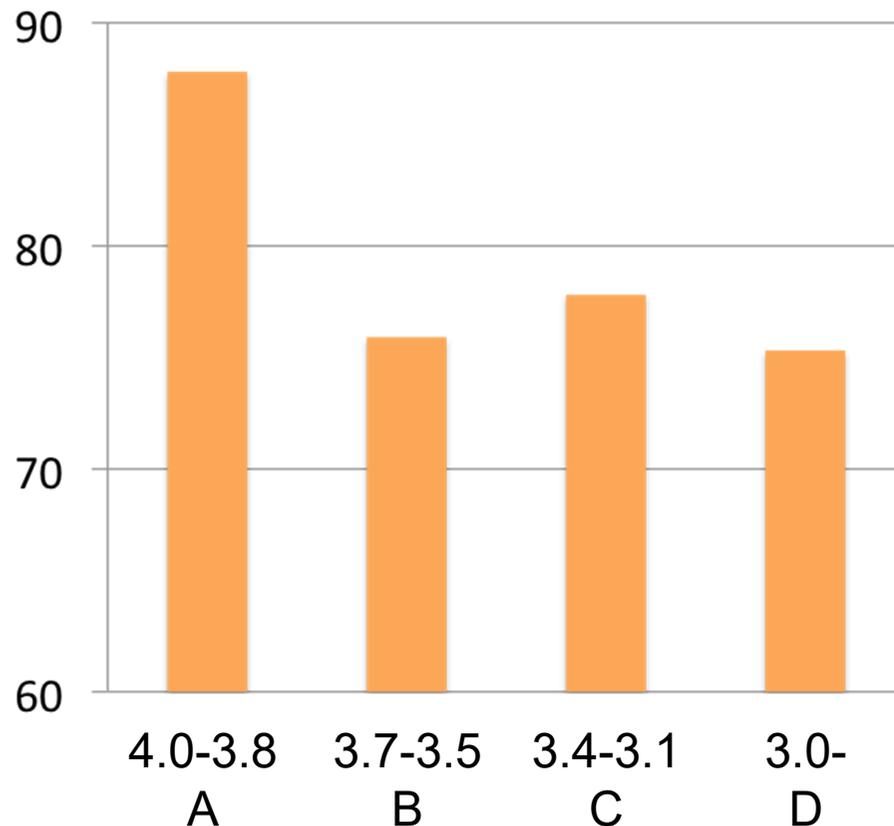
評価が高い免許状更新講習の特徴



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

事後評価別充足率

充足率(%)



講習担当講師

- ◎ 教育学部教員
教育現場の経験
教育現場への積極的な関わり
- ◎ 専門学部の教員
専門知識をわかりやすく説明
- ◎ 外部講師(民間)
専門性を教育に繋げて説明

講習会場 (講義室以外)

体育館

自然保護センター

臨海実験所

企業施設

評価が高い講座の充足率は高く、教育現場と関連づけられることが重要

評価の低い講習の自由記述の特徴



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

講習全体	難しい	
	理解できない	内容が高度なため理解するのが大変 途中からついていけなかった
	専門的すぎる	専門用語が多かった 児童や生徒に伝えるには専門的すぎる
講習内容	学校現場ですぐに役立たない	すぐに役立つとは言えない 授業に活かせるものはなかった
	現場に即していない	実践の話がなかった 実際の活用方法を学びたかった 指導上の留意点を知りたかった 学習指導要領に関連していなかった
開講形態	一方向の講義形式	ひたすら話を聞く講習だった 昔ながらの講義形式で残念

一方で、高評価と考えられる記述もあり、受講者の求めるものが多様であることが考えられる

評価の高い講習の自由記述の特徴①



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

講習全体	楽しい	
	面白い	
	わかりやすい	
講習内容	すぐに学校現場で実践できる	明日からの執務に活用できる 現場に持ち帰り実践したい 明日からの指導に取り入れられる
	現場に即している	
	身近で具体的	
	最新の知識やこれまで知らなかったこと	最新の情報を知ることができた 今まで知らなかったことを知ることができた
	日頃の疑問に答えるもの	疑問が解決した 日々悩んでいることへのヒントや答えが得られた
開講形態	演習・実習・実技	
	少人数制	
	講師との双方向	
	受講生同士の学び合い	

評価の高い講習の自由記述の特徴②



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

考え方や学びの姿勢を見直すことができた

色々変化する時代なので学び続けていくことの大切さを改めて感じることもできた

知る楽しさ、学ぶ楽しさを感じ、自分を見つめ直す機会となった

授業づくりを見直したいと感じた

これから教師としてやっていく上で、大きな指針を示していただいた

新しい時代が始まろうとしている今、私たちもその時代に合わせた教育や考え方を身につけないといけないなと思い、少し焦りも感じています

主体的な学びや振り返りの契機となるような記述が見られた



- 現職教員を通して学校現場の現状を知ることが、**教員養成の質向上**につながる
- 地元の学校現場の改善に間接的に関わることができる
(地方国立大学としての**社会貢献**)
- **大学をアピール**する機会となる
学部受験生の確保
教職大学院への進学の契機となる？



● 岡山大学の教員が関わる研修等

大学(Nits 岡山大学センター)主催の研修

教育委員会等主催の研修

教育委員会と大学との連携 **強**

受講対象(経験年数, 役割など)に, 教員等育成指標を踏まえた到達目標を達成するためには, 両者の連携が必要となる

授業・学校改善などへの関わり(OJT) ……学校と大学(教員)との連携 **強**

学校課題解決のために, 計画的・継続的な連携が必要となる

免許状更新講習 ……教育委員会と大学(教員)との連携 **弱**

多様な受講生に対する講習(研修)目標を教育委員会と共有しにくく, 講習担当個人に任せるところが多い

教育委員会, 大学の双方で目的を共有できる場合に連携強まる



領域	事項
必修領域	イ 国の教育行政や世界の教育の動向 ロ 教員としての子ども観, 教育観等についての省察 ハ 子どもの発達に関する脳科学, 心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む) ニ 子どもの生活の変化を踏まえた課題

- ◎ 岡山大学では専門分野が教育学または教科教育学(イ, ロ), 及び心理学または医学(ハ, ニ)の教員2名で分担しているが, 担当者が限られるため, 必要数を開講することが難しい
- ◎ 担当者の専門性を多少超える内容も含まれるため, 開講の負担が大きい
- ◎ 必要数に応じた講習を開設する為には, 1講習あたりの受講者数が多くなり, 評価が低い傾向にある

担当者の専門分野の講習, 成果が実感できるものは負担小さい



- 受講者アンケート等を踏まえ、講習内容、開講形態、開講時期等を実施委員会で検討し、運営委員会で次年度の開講方針を決めているが、受講者の**要望に十分応えるのは難しい**
担当者の確保、必要数の開講、望ましい講習内容 等
- 受講者募集から修了証交付までの段階的な事務手続きのため、**開設機関が増えにくい**
- 少人数の講習やCOVID-19状況下では、**採算が取れない可能性**がある
H30より講師手当を引き下げ、必修領域、大人数講習への傾斜配分
対面またはオンラインのどちらかの開講方式では開講・受講の選択が狭まる